

1 校庭・園庭芝生化で使う芝生の種類

校庭・園庭の芝生は、自らが傷つくことで、子どもたちが転倒した時の衝撃や擦り傷・切り傷を軽減しています。「擦り切れにくい丈夫な芝」であることも大切ですが、「擦り切れてもすぐに回復する芝」が求められています。

(1) ティフトン 419

横浜市の校庭・園庭芝生化事業では、利用による損傷からの回復が早く、サッカー場・競技場でも広く使われているティフトン 419の使用を推奨しています。

ティフトン 419 の特徴

- 生育が旺盛

芝草の中で、横に伸びるほふく茎（横に伸び芝生を形成する茎）の生育が最も速く、回復力に優れています。

- 横浜の気候に適している

夏に旺盛に生育する暖地型芝草で、横浜の気候に適しています。ただし、冬季は休眠して、葉が茶色く退色します。

- 十分な日照・散水・肥料・芝刈りが必要

ティフトン 419 を元気に育てるためには、たくさんの日光と水、葉や根を伸ばすのに必要な肥料、芝に均一に日光を当てるための芝刈りが必要です。[芝刈り：P.12 施肥：P.16 散水：P.18]

- ティフトン 419 はこんな芝生

アメリカのジョージア州にあるティフトン農業試験場で品種改良された芝生で、ゴルフ場のフェアウェイ用として売り出されました。その後、世界中のスポーツターフに使われています。



ティフトン 419 の芝刈り後の様子



ティフトン 419 の生育旺盛なほふく茎

(2) その他の芝草

横浜市の校庭・園庭の芝生化ではティフトン 419 が数多く使われていますが、他の草種を使っているところもあります。

それぞれの草種の特徴を十分に理解したうえで、環境に応じた維持・管理を行ってください。

ノシバ・コウライシバ

日本列島に自生する芝草で、ティフトン 419 に比べると損傷からの回復力が劣ります。そのため、特に冬眠中の利用制限や、回復のための養生期間を確保することが望まれます。一般に芝刈りや施肥の頻度は、ティフトン 419 に比べ少ないと言われていますが、その代わりに、芝生を注意深く観察し傷んできたらすぐに養生を行うことが、芝生を維持するための管理のポイントとなります。



ノシバ

ライグラス類

冬眠しない寒冷地に適した芝草で、ティフトン 419 など夏芝の休眠期間となる冬季に夏芝を保護するために利用します。また、種をまいてから芽を出すまでの期間が短く初期生育が速いという特性から、一時的に芝生を保護するために使われますが、夏の暑さには弱く横浜では夏を越せません。

専門家の助言のもとで使用し、管理方法等の継続的な指導を受けてください。



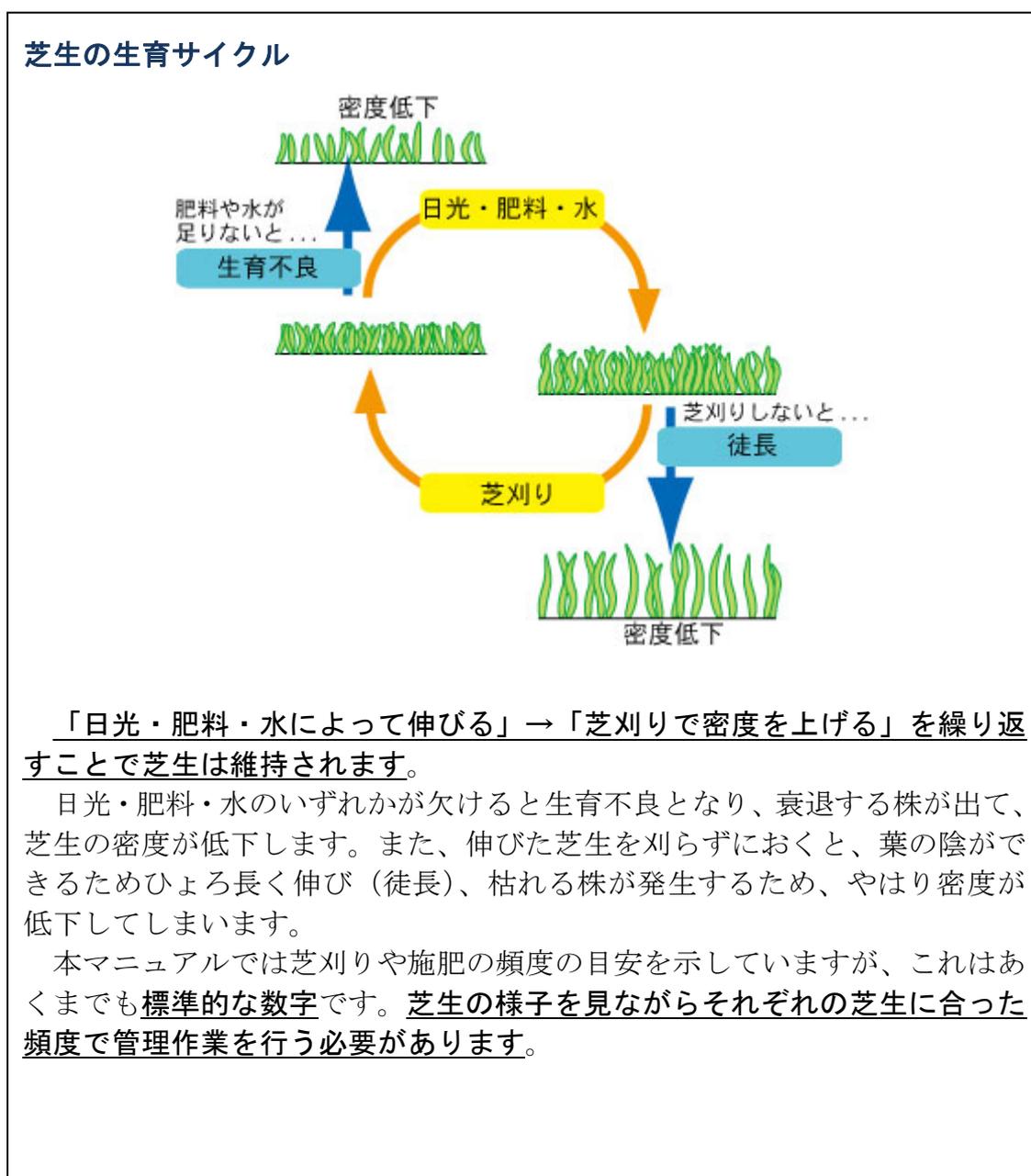
ライグラス

2 芝生の管理（ティフトン419の場合）

ここではティフトン419により芝生化した校庭・園庭の管理を中心に説明していきます。他の草種で芝生化している場合や、整備段階での特徴（水はけが悪い、日照時間が短いなど）がある場合は、できるだけ専門家のアドバイスも受けるようにしましょう。

(1) 芝生管理の1年間

芝生で最も大切な管理作業は芝刈り・施肥・散水です。芝生の生育期間中は、芝刈り、施肥、散水を定期的に行ってください。



a) 春の管理の目安 －3月から5月まで－

ティフトン 419 は一日の最高気温が 3～4 日連続して 15℃を超える頃（横浜の平年では 3 月下旬）に、冬の休眠から目覚め新しい芽を出し始めます。この時期の芝生管理のポイントは、スムーズにティフトン 419 の新芽を出させ、夏の生育旺盛な時期へ備えることです。

また、更新作業を行う場合は、この時期から準備を始めます。

春の管理のポイント

- 新芽を出させる

スムーズに新芽を出させるために、3 月下旬頃には一日の利用時間を普段の半分程度に控えるのが効果的です。[養生：P.1]

- 新芽の生育を促す管理作業

新芽の生育に必要な肥料・水を芝生に与えます。また、この時期の芝刈りは、刈り揃えることで芝生へ均等に日光を当てるため、10～14 日に 1 回以上行います。刈りかすが増えてきたら、刈る間隔を短くします。

[芝刈り：P.12]

さらに肥料は月 1 回与えます。

[施肥：P.16]

3～4 月は定期的に雨が降るので散

水の必要がない場合が多いですが、5 月には気温が高くなり、降雨がない日が続くことがあるので、散水の目安を参考に芝生の下が濡れて色が変わるぐらい散水します。[散水の目安：P.19]



芝刈り

- 更新作業の準備

夏の生育期に更新作業を行う時は、あらかじめ作業内容や時期を計画しておきます。

| | 3月 | 4月 | 5月 |
|-----------|----|----|---------|
| 芝刈り | | ● | ● ● ● |
| 施肥（月 1 回） | | ● | ● |
| 散水（随時） | | | ■ ■ ■ ■ |
| 補修 | | | |
| 更新作業 | | | |

d) 冬の管理の目安 -12月から2月まで-

この時期は、芝生は休眠しています。作業は散水だけですが、この時期にしかできない記録の整理や機材の整備等を行います。

冬の管理のポイント

- 休眠中の芝生

芝生が休眠中でも、乾燥注意報が発令されるなど降雨がない日が続いた場合、散水の目安を参考に芝生の下が濡れて色が変わるくらい散水します。[散水の目安：P.19]

- 利用の制限

芝生のほふく茎がむき出しになり、削れているような場所は[補修方法の目安：P.21]、部分的に利用制限を行います。養生の必要な場所が広くなりそうな時は、エリアを分け交代で養生を行います。[養生：P.20]

- 記録の整理と翌シーズンの年間管理計画

管理記録や使用記録を整理し、作業項目毎にまとめます。それに基づき、4月以降の年間管理計画を決め、肥料や燃料の調達計画を立てます。専門家への相談や発注が必要な更新作業や補修工事は予算化しておきます。



雪が降ったら溶けるのを待ちましょう

- 機材の整備

芝刈り機や肥料散布機などの機材の清掃・調整・修理をこの時期に行います。必要に応じて専門業者に依頼し、翌シーズンに支障なく使えるように準備します。

| | 12月 | 1月 | 2月 |
|--------|-------|-------|-----------|
| 芝刈り | | | |
| 施肥 | | | |
| 散水（随時） | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ ■ ■ |
| 補修 | | | |
| 更新作業 | | | |
| 機械整備 | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ | ■ ■ ■ ■ ■ |

(参考) ウィンターオーバーシーディング (WOS)

毎年秋に、ティフトン 419 (ベース芝) の芝生の上に、冬季に生育するライグラス類の種子を播くことで、冬でも青い芝生を保ち、ティフトン 419 の休眠期に使用することによる傷害を軽減するための手法を、ウィンターオーバーシーディング (Winter Overseeding 以下 WOS) といいます。ライグラス類は翌年の夏までに暑さにより全て枯死し、再びティフトン 419 の芝生へと入れ替わります。

WOS を成功させるには、芝生管理の専門的な技術が必要です。特にティフトン 419 の生育が十分でない状態で WOS を行うと、生存競争の結果、両方の芝生が衰退してしまうので注意が必要です。

芝生を整備してから少なくとも3年間はティフトン 419 を健康に育てることに注力しましょう。その後、ティフトン 419 の生育が良好でしっかりした芝生が維持できていたら、WOS を試すこともできます。WOS は、必ずしも必要なものではありませんので、まずはティフトン 419 の生育を十分にしていけることが大切です。

WOSのポイント

- 専門家の助言を受ける

もとの芝生の状態、ライグラス類の選択、実施時期、播種量、播種準備作業、初期養生期間、芝刈り方法、施肥方法、使用開始時期等については芝生専門家の助言を受けます。

- 毎年の播種作業と初期養生
(秋分の日から 10 月第 2 週頃まで)

発芽の状況を見ながら複数回行います。播種の後には、ライグラス類の発芽・定着まで、種子が乾かないように散水を行います。



ライグラスの種子と散布機

- ティフトン 419 への切り替え
(5 月から 7 月にかけて)

春になりティフトン 419 が生育を始めたら、ライグラス類の衰退をうながします。芝刈りの頻度を WOS しないときの倍程度に増やし、ティフトン 419 にたっぷり日光を当てるようにします。また、4 月の施肥を止め、春にライグラス類があまり伸びないように心がけます。

(参考) ノシバ・コウライシバの管理

ノシバ・コウライシバも、ティフトン419と同じように夏に伸びる暖地型芝草ですが、ティフトン419より回復力が劣ります。

ノシバ・コウライシバも夏に旺盛に生育する暖地型芝草なので、ティフトン419と同じように芝刈、施肥、散水を行います。

芝生の様子をよく観察し、養生や補修を行うなど、きめ細かい管理作業をすることで、良好な芝生となります。



ノシバ・コウライシバは、よりきめ細かく養生・補修することが必要



芝刈り



施肥



移動式スプリンクラーによる散水